

# 平成29年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

平成30年6月

目指す学校像	英語のシャワーでグローバルなトップエリートを育てる。 (様々な体験学習を通して、バランスのとれた人格形成を目指す。)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」の3つの特質を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標			年 度 評 価			意 見 ・ 要 望 など	
No.	課 題 項 目	具 体 的 な 方 策	課 題 項 目 の 達 成 状 況	自 己 評 価	次 年 度 へ の 課 題		
1	こころを育てる	人間性あふれる心豊かな子どもも育てる	学校生活の中での、「あいさつ」を習慣化させる。登下校、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的に挨拶することを心掛ける。 優しい心と感謝の気持ちを育む。特に行事や体験・縦割り活動・ペア活動・通学班活動などを推進し、異学年間の交流を通して、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。 児童朝会を通して、生活目標達成の表彰、個人努力を認められるように表彰する機会を設ける。	授業の開始、終了時には満足のいく挨拶ができていた。保護者や来客に対しても気持ちの良い挨拶ができる児童が増えつつある。 縦割り活動、学校行事を通して、上級生に自覚や責任が育ちつつあり、下級生から頼りにされている様子が見られた。 全校朝会での表彰を楽しみにし、次回も頑張ろうという意欲とそれを称賛する雰囲気認められた。	A A A	基本的な生活習慣の中でも、挨拶は最も大切であることを意識させ、自ら進んで挨拶できるよう心掛けさせる。 縦割り活動を継続し、下級生を思いやる気持ち、上級生を敬う気持ちを育めるよう工夫する。 登下校中のマナー、特に電車内等での公共マナー教育についても機会ある毎に取り組み、一般の方へ迷惑をかけないよう指導を徹底したい。	全体的に明るく元気よい挨拶がきているが、一部の児童は声が小さな挨拶となっている。保護者や来客に対しても気持ちの良い挨拶をしてくれる児童が多い。 一方、校外でのマナーについては、改善した方がよいと思われる点がある。一部の児童について登下校の電車内で騒ぐなど、マナーが守れないことが見受けられた。この点を重点課題として取り組んで欲しい。
		文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかり易い広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。	中学・高校生との交流活動の一つとして、高校理数科の生徒によるプログラミング講座を実施した。また学校生活において文理校生としての誇りを伝えており自覚をもって行動できる児童が増えた。	B	中学・高校のプログラミング講座は引き続き実施し、先輩の姿を将来の自分と重ね合わせることで、将来の自分を見つける機会としたい。また、文理高校卒業生で社会で活躍している方の講演会も検討したい。	多くの学校行事が保護者や地域の方々の協力で成り立っていることを実感している。教職員だけでなく地域の方がサポートしてくださっていることは児童にとってもよい学びにつながっている。 また、高校生や社会人の交流活動についてもより一層の充実を図って欲しい。
学ぶことの喜びを体感させ自ら学び考える習慣を身につけさせる		学ぶことの楽しさを実感すると共に、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に足りる十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション能力も身に付ける。 学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。チームティーチングの実施や得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。 教師間の授業見学等を実施し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。	体験学習を通して学ぶことの楽しさを伝えてきた。英語検定、漢字検定、論語検定を実施するとともに、学年を超えた英語・算数オリンピック等を実施し、学習への動機づけに効果を上げた。 算数においては、チームティーチング、習熟度学習を実施し、効果を上げた。得意科目をもつ児童においては放課後の補習などを通して改善を図ってきた。 研究授業を実施することで、指導力を向上させるきっかけを作った。教員研修の機会を増やすよう検討してきているが、時間調整が困難で思うような実施には至っていない。	A A B	知性を育てることの実践に向けて、豊かな学力の構築、思考力・判断力・実行力の涵養、プレゼンテーション能力の育成、リーダーシップ教育の実践を中心に図っていきたい。 それぞれの活動における課題をより明確にし、その課題を解決して、達成目標に向けて成果を上げていきたい。 教師の授業力の向上に向け、研究授業に加えて、教科内で児童にとって興味関心を引き出す指導について検討したい。	体験学習を豊富に取り入れていることから、学習へのきっかけ作りができているように思える。この体験学習での興味関心が将来の進路を左右することが予想されるので、小学生時代に多くの経験をさせてもらえる環境にあることに満足を感じている。 学力差のある児童に対するの取り組みについて、放課後の補習の充実を図るなど工夫して欲しい。 また、将来、中学、高校に進学した際に、十分に対応できる思考力、プレゼンテーション能力を身に付けさせて欲しい。	
2	小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。	中学、高校生が来校し、クラブ活動の指導などにあたる機会を作ってきた。12年間の一貫教育については十分な共通理解が図られていないことから、年度末に小中高連絡会を発足させ連絡が密にとれるようにした。	B	12年間の一貫教育をより充実させるために小中高連絡会議を定期的に開催するとともに、各教科でも中学・高校と連携をとり、情報共有したい。この連絡会議をもとに、中学進学を見据えた授業内容を教科にて検討したい。 特に英語については小学校の流れを汲んだ内容になるよう連携の強化を図りたい。	小中高12年間の教育の流れを明確にして欲しい。そのためには、中学、高校の先生方の情報共有や人事交流があってもよいと思われる。 小学校で身に付けた英語力を中学進学後も維持できるような体制を整えて欲しい。具体的には小学校で行っている文理イメージ授業を中学での導入を検討して欲しい。	
		指導要領改訂を視野に入れ、教育の将来を見据えて本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を計る。	常に児童のことを踏まえた改善と改革を続けてきた。既に新指導要領を見据えたカリキュラムを計画検討してきた。	A			
3	国際性を育てる	英語の授業や音楽・図工・体育の授業の中での英語(文理イメージ授業)の充実、日常生活の中での英語のシャワー、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。	英語の授業も、文理イメージ授業(英語による音楽・図工・体育)も歴史を重ね、大きな成果をあげてきた。英語を通して交流、意見交換できる児童が増えつつある。	A	外国人英語講師と接する機会は多く、リスニングおよびスピーキング力が高い児童が多い。引き続き英語検定への合格者を増やすための対応をしっかりと取り組みたい。また英語の4技能の定着を図るため、高学年においてはWritingの授業を取り入れるなどの工夫をし、さらなる英語力の向上を図りたい。	英語検定試験に対して、多くの児童が前向きに挑戦している。中には2級、準2級に合格している児童がいることから、英語教育の成果が表れていることが伺える。	
		海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	英国短期留学では現地で多国籍児童と積極的に交流する姿が見受けられた。米国研修では同世代との文化交流を通し異文化を学ぶ機会を設けた。	A	さらに、伝統的日本文化の理解と習得は、和食作法教室、百人一首大会、論語講座を実施することで養いたい。	また、将来、世界で活躍することを踏まえると、日本の伝統文化やマナーを学ぶことの意義は大きい。さらに、イギリス短期留学やアメリカ研修に参加した後の様子を見てみると、自分のことは自分できるようになった。単に英語を話すための研修ではなく、人として成長につながる短期留学、研修旅行であると感じた。	
		日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食のマナー体験、茶道研修、書き初め競書、おもちゃつき大会、百人一首大会、短歌づくり、論語検定等々)の充実を更に進める。	学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、全児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童に伝えた。	A			